平成 25 年 10 月 4 日

水道記念館と生物飼育の存続を考えるネットワーク

代表 綾 史郎 様

大 阪 市 水 道 局 長

担当：総 務 課

電話：06-6616-5404

「水道記念館の飼育生物と水道記念館の今後についての質問状」回答への
再々質問について（回答）

記

平素は何かと本市水道事業の運営に御協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、平成 25 年 9 月 20 日にいただきました「水道記念館の飼育生物と水道記念館の今後についての質問状」回答への再々質問につきまして、別紙のとおり回答いたします。

今後とも本市水道事業に御理解、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

番号	1
項目	適切な飼育を行い、これ以上個体と種類が減少しないようにしてください。
<p>(回答)</p> <p>これまでも度々回答させていただいておりますように、保有する水生生物の飼育に関しては、平成24年4月の一時休館以降も、日々の給餌作業や水槽清掃をはじめ、水温管理、機器の整備・点検など飼育に関わる業務を行っており、寿命による減少にありますものの、飼育環境の変化により個体数が減少することのないよう適切な飼育に取り組んでいます。</p> <p>しかしながら、従前より表明させていただいておりますように、水道事業の根幹をなす給水収益が、毎年度約10億円を超える規模で減少している中で、多額の経費をかけて、これまでのように水生生物の飼育を継続していくことは困難であります。</p> <p>そのため、マネジメントの一環として、水生生物は種の継承や展示が可能な飼育環境が確保された専門施設に譲渡していく方針であり、去る平成25年8月8日付けで公益社団法人日本動物園水族館協会様に正式に文書で譲渡に関する依頼を行い、同協会加盟園館での水生生物の受け入れについての協力をお願いしているところです。</p> <p>当局としましては、適切な専門施設に譲渡することにより、少しでも早期に水生生物の飼育、展示が再開され、広く市民の皆さま等にご覧いただくことが可能となるよう努めてまいります。</p>	
担当	水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404

番号	2
項目	<p>貴重性の大きな種についても、種別に個体数増減を答えて下さい。また、貴重性の比較的小さな種のリストに種名を書かれていない種類がかなりありますが、それらの個体群は維持されているのでしょうか。現状を教えてください。</p>
<p>(回答)</p> <p>貴重性が大きいと思われる種の個体数の増減につきましては、次のとおりとなっております。(平成24年3月31日と平成25年8月31日現在の個体の増減数)</p> <p>アカザ (-9)、アジメドジョウ (-25)、アブラハヤ (-15)、アブラヒガイ (-2)、アブラボテ (-33)、アユモドキ (-2)、イトモロコ (-10)、イタセンパラ (404)、イチモンジタナゴ (-102)、イワトコナマズ (-2)、オオガタスジシマドジョウ (-5)、カネヒラ (-9)、カワアナゴ (-1)、カワバタモロコ (12)、カワムツ (-22)、カワヨシノボリ (-14)、ギギ (±0)、ゲンゴロウブナ (-2)、ゴクラクハゼ (-6)、サンインコガタスジシマドジョウ (±0)、シロヒレタビラ (37)、スナガニゴイ (±0)、ツチフキ (-5)、ドジョウ (-21)、ナガレホトケドジョウ (3)、ナミスジシマドジョウ (-12)、ニゴロブナ (-1)、ニッポンバラタナゴ (-39)、ヌマムツ (-17)、ハス (-8)、ビワコオオナマズ (-1)、ビワコガタスジシマドジョウ (-3)、ビワヒガイ (3)、ビワヨシノボリ (-7)、ホトケドジョウ (-3)、ホンモロコ (-16)、ムギツク (±0)、メダカ (-25)、モツゴ (-303)、ヤリタナゴ (4)、ワタカ (-8)</p> <p>なお、天然記念物をはじめとする希少種が含まれておりますことから、種ごとの具体的な個体数の公表につきましては、以前も説明させていただいておりますように、種保護の観点からの管理上、差し控えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>また、貴重性の比較的小さな種を含む、上記以外の種の飼育数の推移につきましては、次のとおりです。(平成24年3月31日⇒平成25年8月31日)</p> <p>アユ (2⇒0)、アルビノソウギョ (1⇒1)、ウキゴリ (3⇒0)、ウグイ (11⇒8)、ウツセミカジカ (8⇒0)、ウナギ (2⇒2)、ウロハゼ (1⇒0)、オイカワ (48⇒2)、オオキンブナ (11⇒5)、オオクチバス (3⇒2)、オオシマドジョウ (67⇒51)、オオタナゴ (3⇒1)、オオヨシホボリ (1⇒0)、オヤニラミ (8⇒0)、カジカ (2⇒0)、カダヤシ (7⇒0)、カマキリ (4⇒0)、カマツカ (33⇒9)、カムルチー (2⇒0)、ガラルファ (14⇒10)、キチヌ (1⇒0)、ギンブナ (38⇒13)、クロダイ (2⇒0)、クロヨシノボリ (2⇒0)、コイ (10⇒9)、コウタイ (2⇒1)、コウライアカザ (1⇒0)、コウライニゴイ (28⇒19)、コクレン (6⇒4)、シマイサキ (5⇒0)、シマヒレヨシノボリ (14⇒4)、シマヨシノボリ (14⇒0)、スゴモロコ (16⇒5)、スナヤツメ (12⇒0)、スミウキゴリ (7⇒1)、ゼゼラ (16⇒0)、ソウギョ (13⇒10)、タイリクバラタナゴ (35⇒10)、タイワンドジョウ (6⇒4)、タウナギ (3⇒2)、タカハヤ (41⇒23)、タモロコ (18⇒6)、チチブ (3⇒0)、デメモロコ (19⇒2)、トウヨシノボリ (23⇒0)、トビハゼ (14⇒0)、ドンコ (4⇒0)、ナマズ (5⇒3)、ニゴイ (7⇒1)、ニジマス (2⇒2)、ニッコウイワナ (1⇒0)、ヌマチチブ (10⇒0)、雑種ハリヨ (10⇒2)、ヒドジョウ (1⇒0)、ビワマス (1⇒1)、ブルーギル (16⇒1)、ボラ (16⇒0)、マハゼ (11⇒0)、ミミズハゼ (1⇒0)、メナダ (1⇒0)、ルリヨシノボリ (2⇒0)、</p> <p>なお、平成25年8月31日現在での飼育数は72種2,463個体となっております。</p>	
担当	<p>水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404</p>

番号	3
項目	<p>前回質問に対する回答では、「総合的な費用対効果から経営判断したものであります。」とのみ書かれていて、誰が行ったかが書かれていません。質問通り、今回の「費用対効果精査をしないで水族展示廃止の判断」を誰が行ったのかを明確にお答えください。</p>
<p>(回答)</p> <p>これまでも回答させていただいておりますように、水道事業収入の根幹をなす給水収益が減少傾向を続けている中、水生生物の展示には年間約 3,000 万円の経費を要し、事務事業全般の費用対効果を見直しする中で、独立採算制を採る企業体として水生生物の展示の廃止を経営判断したものであります。</p> <p>地方公営企業法では、地方公営企業は、本来の目的である公共の福祉の増進とともに、常に企業の経済性を発揮するよう定められています。また、水道法で定められている、清浄にして豊富低廉な水の安定的な供給を、将来にわたって持続的に確保していくため、今後とも企業体として各種事業の改廃を適切に経営判断し、実行していくことが、市民に対して果たすべき当局の最大の責務であると考えます。</p>	
担当	<p>水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404</p>

番号	5
項目	貴局がプロポーザル募集時点で参加者に水族存在の情報を提供していただくことが公平なスタンスであると考えますが、いかがですか。
(回答)	
<p>前回回答させていただいておりますように、現在、水道記念館のリニューアルにあたり、公募型プロポーザル方式による提案募集を検討しているところであります。なお、募集にあたっては、飼育中の水生生物が存在することも示し、事業者が自らの負担で水生生物の飼育、展示する提案を可能とすることも検討しております。</p>	
担当	水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404